

# ピヨ太ヒ黄色の羽



文・西真希  
絵・回脇希

あるところに、ぴよ太というヒヨコがいました。

ある朝、ぴよ太が目を覚ますと、いつもは黄色いぴよ太の羽が、真っ白になっていました。

「見てぴよ子ちゃん。ぼくの羽が真っ白になっちゃったんだ」

「それは大変だわ。どうしたら元にもどるのかしら」

「しばらく考えていると、ぴよ子がこんなことを言いました。

「いろいろなところに行つてみれば、なにか分かるかも知れないわ」

「なるほど、それはいい考え方だね」

ぴよ太はぴよ子とお別れすると、さっそく出かけることにしました。

ぴよ太が最初におとずれたのは、家の近くにある森のなかでした。

いつも友達と遊んでいるところです。木や草がたくさんあって、ここちがよい場所でした。

「だれもいないなあ」

ぴよ太は、自分が真っ白になつた理由を探すために、森のあちこちを歩きます。すると

きがつければ、とてもおかしなことがおきていました。

「僕の羽が、緑色になつてる！」

森と同じように、ぴよ太の羽が緑色になつていたのです。真っ白ではなくなりましたが、元の黄色ではありません。

「黄色にもどれるところが、どこかにあるかもしれない！」

そう考えたぴよ太は、黄色に戻れる場所を探すため、別のところに行くことにしました。

そうしてぴよ太がむかつたのは、森からすこしはなれたところにある海でした。夏になると、友達や家族で泳いでいるきれいな場所です。キラキラと青い海がかがやいています。

「やっぱり、だれもいないなあ」

ぴよ太は海のそばを歩きますが、やっぱり他の鳥たちのすがたはありません。しばらく歩いていると、ぴよ太の羽の色がふたたび変わりました。

「今度は、青色になつた！」

ぴよ太の羽は、海と同じ青色になつていました。白から緑、緑から青へと、羽の色がかわつていつているのです。

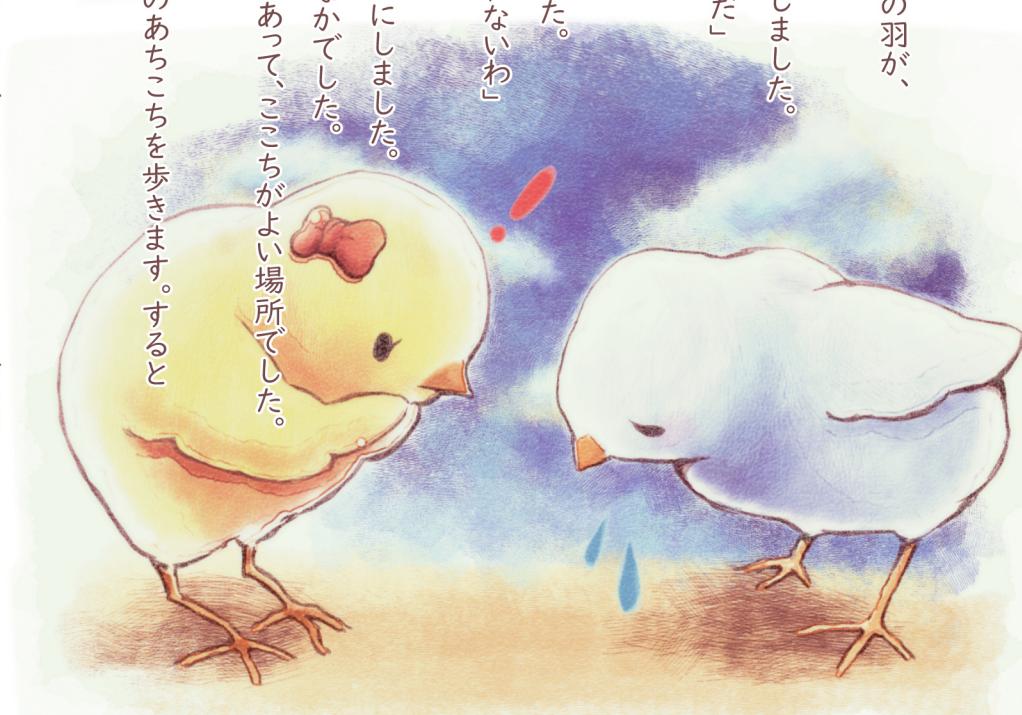
「周りの色と同じ色になるんだ！」

ぴよ太はさつそく、黄色いところを思い出そうとします。ですが、なかなか黄色の場所は思いつきません。悩んだぴよ太は、たくさんものがある、町に行くことにしました。

ぴよ太がやつてきた町は、家や海から一番近い、いつもお母さんと買い物に来ているところでした。一人で来るのははじめてで、ドキドキしています。

「黄色、ないなあ」

町を歩きますが、黄色がたくさんあるところはなかなか見つかりません。周りの大人の鳥たちは、白や黒色をしています。ぴよ太のように、子どもであるヒヨコの姿はありませんでした。大人達にかこまれながら、ぴよ太は黄色のところを探します。



しばらく町を歩いていると、ぴよ太は大きなお店を見つけました。レンガづくりの赤いお店です。こんなに大きなお店を見るのは、生まれてはじめてでした。

「すごい！ちょっとだけ入つてみよう」

お店のドアを開けます。  
お店は、お菓子屋さんでした。ケーキやクッキーがたくさん売られています。さとうの甘い  
かおりが、とってもおいしそうです。

「おなかへつたなあ」

お店の中を歩きながら、ひよ太はひとり「ふやきました。朝起きてから、なにも食べていなかつたのです。ですがひよ太は、お菓子を買うお金を持っていません。ひとりでいることも、

「もう、黄色の羽にはもどれないのかな」  
たんたんざひしくな」できました。

そう思うと、どんどんとかなしくなってきます。びよ太は泣きそうになるのをガマンしながら、お店を走るように出ました。

お店を出ると、びよ太は自分の羽の色が変わっていることに気がつきました。赤いレンガのお店に入っていたので、羽が赤くなっていたのです。このままずっと元の色にもどれないと、

みんなからきらわれてしまうかもしれません。ぴよ太は怖くなつて、町を走つて出ました。

びよ太は泣きながら家にかえります。自分の色がこんなに変わってしまうと、自分自身もいなくなってしまいそうな気がしたのです。自分らしい色にもどりたいと、びよ太は泣きながら

走ります。  
海まで来たとき、ぴよ太の羽は海と同じ青色になりました。森までやつてきたときは、草や

木と同じ緑色になりました。そして、えんえんと泣きつづけていると、朝と同じ白い羽になりました。

羽が真っ白になってしまったころ、ぴよ太は自分の家につきました。涙をふくと、家の中に  
入ります。

家に帰ると、そこにはおどろく

最初に羽のことを話したびよ子がいたのです。びよ子だけではありますん。いつも森で遊んでる友達や、いつもいそぎそうこして、う父さん、う母さんも、まのです。

「みんな、どうしてここにいるの？」  
ペセ子はふいがきつて、ペセ子へ聞きま

ひよ太はふしきかへて ひよ子に聞きました  
「ぴよ太がこまつてゐたって言つたら、みく  
ペニンバニニシルーハノミヂペコトの周り

「羽が真っ白になつたって聞いてきたんだ」「つづいて云ふべく行かう」

たくさんの方達が、

てくれています。

みんなのやさしさに、ひよ太の  
りだしました。

「僕の羽が、黄色にもどつた！」

「こんなことを言いました。  
「ぴよ太がぴよ太らしくいられるのは、私たちの近くってことじゃないの？」

ぴよ太は、なるほどと思いました。森や海、町に行くのではなく、大切な友達や家族といふことで、ぴよ太は自分らしくいることができるのです。

